



第2回白河地域在宅医療・介護連携推進協議会&第3回市町村担当者会議

日時：令和元年10月10(木) 15時30分から17時 場所：白河図書館会議室 参加者：20名

白河地域在宅医療拠点センター杉原副センターの司会・進行で開催された。
冒頭、鈴木茂毅会長から、高齢社会となり医療、福祉が大きな問題になっている。これを機会に皆さんと考えていきましょう、との挨拶がありました。

続いて杉原副センター長より拠点センターの事業項目である(ア)地域の医療機関・介護事業所等の収集及び活用に関すること (イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出及び対応策の検討に関すること (ウ)切れ目のない在宅医療及び介護の提供体制の構築に関すること (エ)医療・介護関係者の情報共有の支援に関すること (オ)在宅医療介護連携に関する相談 (カ) 医療・介護関係者の研修に関すること (キ)地域住民への在宅医療・介護連携の普及に関すること (ク)在宅医療・介護連携に関する関係市町村との連携に関することについて、この4月～9月の活動実績および今後の計画案の発表があり、内容について了承されました。

(ア)の情報収集に関することでは白河地域在宅医療・介護連携ガイドの発行に伴い、全ての医療機関・介護事業所の更新された情報が9月にホームページに掲載され、また新たに拠点センターのfacebook ページが開設されたとの説明がありました。また(エ)の事業項目に含まれる退院支援ルールについては、現在のところ実施予定はなしと報告されたが、県南保健福祉事務所の藤田様より令和2年2月20日にサンフレッシュ白河内容で討議を開催予定していると報告がありました。

続いて10月以降の医療・介護連携研修会・講演についてワールドカフェ方式でのグループワークが行われました。
「ワールドカフェ」方式は、飲み物やお菓子など飲食をしながら、リラックスした雰囲気の中で参加者が対話を通じて「気づき」を得ることを目的とする新しい会議スタイルで、今回は拠点センタースタッフがファシリテーターとなり、これからの研修会・講演会の開催頻度と時期、開催日時・時間、講演・研修テーマについてグループ毎に多様な意見が交換され、発信された意見はグループ毎にポストイットに記録されました。



第1回医療・介護多職種連携研修会開催

日時：令和元年9月19(木) 18時30分から20時30分 場所：サンフレッシュ白河 参加者：55名

白河市在宅医療拠点センター杉原常夫副センター長の開会の挨拶の後、「地域包括ケアシステムの自助・互助・共助・公助の考え方で人工呼吸器装着患者をこの地域でサポートしていくためには？」という研修テーマで講義とグループワークが行われました。

講師は穂積彰一医師が務め、医師、歯科医師、介護支援専門員、薬剤師、作業療法士、相談員、管理栄養士、介護職員など多職種の方々55名が参加されました。

穂積講師からは、保健・福祉・介護・リハビリ・医療と多数の職種の方が協働して地域の課題にあたるのが地域包括システムと言われている。その中でも植木鉢の土台になっている「本人の選択と本人・家族の心構え」が一番重要で、この想いを地域包括ケアシステムと連携させることが大切である。それには自助・共助・互助・公助を地域でフォローアップしていかななくてはならないとの説明がなされた。

続いてグループワークの症例が課題として紹介され、職種の違う6人単位のグループ(10グループ)に分かれ、自助・共助・互助・公助の観点からの具体的な活発なサポート案が話し合われました。

研修後のアンケートでは「今後の患者様との関わりにつなげるとも良い研修会になりました」などの感想が寄せられていました。



訪問介護職員の方々むけの排泄ケア研修会が、しらかわ介護福祉専門学校（9月17日 火）、泉崎村保健福祉総合センター（9月24日 火）で開催されました。研修内容は「オムツの構造と適した種類の選択」について白十字株式会社の講師の方からの講義の後、福島県介護福祉会の講師の方から「基本的なオムツの当て方・拘縮、円背、麻痺などある方オムツの当て方」の講義および「ベット上でのオムツ交換等の身体介護」の実習・指導がありました。研修終了後のアンケートでは「即実践できる内容でした」等の意見が寄せられていました。



ACP コアメンバーグループワーク

9月30日 第30回、10月21日 第31回ACPコアメンバーによるグループワークが、白河地域拠点センターで開催されました。

9月30日のグループワークでは、特別養護老人ホーム小峰苑様で行ったACP出前講座の結果報告や次回出前講座対象地域、地域住民向けACP講座内容などについて議論がなされました。

10月21日のグループワークでは、「行動経済学」の観点でACPにおける意思決定の難しさ、意思決定の自由度はどこまで許容されるか等の課題提起がありました。

杉原常夫副センター長からは、今後の介護老人保健施設、特別養護老人ホームでのACP出前講座予定、また2020年度における白河各地区の高齢者サロンへのACPを含む出前講座展開についての案の説明がありました。

第2回多職種連携研修会 11/20（水）開催！

今回は、ICTを活用した医療・介護ネットワークづくりを目指しての研修会です。研修内容はMCS（メディカルケアステーション）と具体的取り組みです。

MCSは、完全非公開型医療介護連携SNSであり、だれでも簡単に使える、新しい情報共有スタイルです。患者を支えようとする思いを育み連携の質を向上させる、安心して実現できるセキュリティ信頼性を高めることが大切です。導入することに必要以上に身構えることなく、今までの方法でコミュニケーションをとってきた人々と気軽につながる。“在宅医療”と“医療情報”が一つにまとまり、プラス“介護情報”も加わることができます。



講師は郡山医師会 理事 福井 謙先生（モミの木クリニック院長）をお呼びしています。医療・介護に関わる方のご参加をお待ちいたします。

日時 令和元年11月20日（水）午後6:30～8:30
場所 サンフレッシュ白河 会議研修室（白河市久田野城内31番地）
申込み：白河地域在宅医療拠点センター
（TEL/FAX 0248-21-8923/0248-21-9267）

テーマ：ACP講義&もしバナゲーム

9月27日（金）特別養護老人ホーム小峰苑様で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の研修会が開催されました。参加者は小峰苑で介護に携わる職員の方を中心に29名の参加があり、講師陣はACPしらかわコアメンバーが務めました。白河地域在宅医療拠点センターの杉原常夫の講義の後、もしものための話し合いをする、そのきっかけを作るためのゲーム「もしバナゲーム」を4名一組のメンバー構成で行いました。

ゲーム終了後、「メンバーそれぞれが違う価値観を持っていてお互いに考え方が違うということが分かった。私自身このゲームをやってみた自分が大切にしていることを改めて感じました」など感想が寄せられました。

テーマ：ACP講義&もしバナゲーム

10月29日（火）介護老人保健施設ひもろぎの園様で、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の研修会が開催されました。参加者はひもろぎの園で介護・医療ケアに携わる職員の方17名の方の参加があり、講師陣は前月に続きACPしらかわコアメンバーが務めました。白河地域在宅医療拠点センターの杉原常夫の講義が「意思決定において相手の価値感を取り扱う際には、医療・介護従事者としての姿勢だけでなく、ひとりの人として向き合う姿勢が重要」との言葉で締めくくられた後、「もしバナゲーム」を4名一組のメンバー構成で行いました。

ゲーム終了後、「このゲームを通して当施設の利用者がどんな優先順位をもっておられるか知りたい」「自分自身、年齢的にも現実的になってきたなと思い、（考える）チャンスを与えていただいたと思います」など感想が寄せられました。

種積彰一医師からは「最期がすっきりする形、こういうACPを通して、後味の良い、最期が納得できるようなお迎えがくるといって、そういう考え方を皆さんと共有する事が大事だと思います。特にご家族と話し合う事が大事」との総括がありました。

テーマ：人には聞けないおしっこの悩み

10月23日（水）矢吹町 柿之内集落農事集会所で「人には聞けないおしっこの悩み・頻尿・尿失禁」の講座が開催され13名の地域住民の方々に参加されました。

講師は渡部医院院長 棚瀬和弥先生、金沢幸子先生に務めていただきました。

寝る前のアルコール・水分を控えること、体操や散歩など適度な運動をすること、夜間の尿量を減らし睡眠を深くする等、生活上の注意点について講義がありました。棚瀬先生の講義後、看護師の金沢幸子先生から骨盤底筋体操の方法の指導を受けて、参加者が実際に行いました。

講義終了後、参加者からの強い要請により、拠点センター杉原副センター長（薬剤師）による「高齢者と薬・多すぎる薬と副作用」についての講義も行われました。

住民向け拠点センターパンフレット

白河地域在宅医療拠点センターの活動を紹介する一般の方々向けの新しいパンフレット（A5サイズ・4ページ版）が出来上がりました。



今後、5市町村の集会所・あったかサロン等へお配りする予定としております。

拠点センターのfacebook開設

白河地域在宅医療拠点センターのfacebookページが開設されました。@zaitaku.shirakawa または白河地域在宅医療拠点センターと検索してください。今後、活動報告や予定を掲載して参ります。